

本科 2 期 9 月度

解答

Z会東大進学教室

高 2 選抜東大英語

高 2 東大英語



14章 不定詞

問題

【1】

A.

全訳

生き残るために、ホッキョクグマは体温を適温に保ち、数日か数カ月に及ぶかもしれない食事と食事の間持ちこたえるだけのエネルギーを蓄えなければならない。クマが休息している際の標準体温は約 37 度で、人間や他の哺乳動物の標準体温に近い。

B.

全訳

子供の独立心が育ち、技術が上達するにつれて、父親の地位は、特に母親の権威に対抗しうる権威として、いくらか上昇する。家庭における権力の座を築き上げようと、夫のために誠実に努力し、子供たちに向かって父親の許可を求めるようにと言いつける母親も多い。①しかし、父親が厳し過ぎるとか寛大過ぎるという理由で、すなわち、子供たちに手加減をしないとか子供たちを甘やかしているという理由で、母親はしばしば父親の決断を無視する。多くのアメリカ人の父母は、子供の楽しみや遊びを制限する責任を負うことを嫌がる。②最初に子供から話を持ちかけられた親が、決定を下す責任を他方に押しつけるという傾向が、非常に一般的に見られる。

C.

全訳

知識を話し手から聞き手に何の支障もなく伝えるためには、聞き手の方が普通は「はっきりとした言葉で」述べられない多くのことを理解し、受け入れなければならない。もし聞き手の方が、話し手が彼の知っていることについて誠実に適切に話してくれているのだと考える程度まで話し手のことを信頼しなければ、聞き手の方は言われたことを受け入れることはできない。

D.

全訳

①「最大多数の最大幸福」を促進するために、より大規模かつ積極的な任務を引き受けるよう政府に要請する際に、政府が支配者となり、我々の行動や信念を指図するのを、我々は許しておくつもりはない。我々の政府は我々に属するものであって、我々が政府に属するのではない。また②我々の目的は個人的自由を拡大するために政府を利用することであり、我々が道具として政府に使われることではない。

【2】

解答

- (1) ① × ② ○ ③ ○ ④ ×
 (2) 「全訳」の下線部b, c, d参照。
 (3) a c e a f b

全訳

いま息子が18歳になり、世の中での自分の将来について考えている。彼は、いつかビジネスにかかわりたいという考えを持っている。質問は、「そのような生涯の仕事に対して、どうやって準備をしたらいいか。」「どんな教育を受ける必要があるか。」である。

息子へ

⑥ほとんどの人は、教育は学校としか関係がないと考えている。では、そこから話そう。君の場合、君が通っている高校は、優秀な生徒を輩出することに特にすばらしい実績を持っているが、そのような優れた学校として成功している理由の1つは、しつげに重きを置いていることにあると思う。もちろん、この種の学校に通わなくても成功している優秀な男性も女性も多くいる。しかし、大きな理由がしつげであることに変わりはない。この場合は大部分が自己鍛錬である。⑦それが、成功する者としめないものを分ける大切な要素である。しかし、よい学校とそれを共有する優れた仲間との交わりによって、間違いなく有利なスタートが切れる。⑧このような幾分コントロールできない外的要因と優れた内面的な特質が組み合わされば、決意ある人間が成功しないでいることは、かなりまれである。

正規の学校教育という枠組みの中では、知識欲という要素を教室に持ち込むことが大切である。学びたいという欲求によって、勉強と学習という行為は楽しいものになる。君の仲間の生徒の中には、教師や制度に対する不満ばかり言っていて、勉強に向かえない者があまりにも多い。制度は私が大学にいたときから30年間変わっていないし、恐らく、これからの30年もあまり変わらないだろう。(教育者のほとんどと共に。)だから、文句を言うのではなくて、「制度」に打ち勝とうとしてはどうか。

注

- ℓ. 1 ◇ the world = human life and its affairs 「世の中；世間」
 ℓ. 2 ◇ one day = some time in the future 過去の「ある日」にも使える。
 ◇ would : 「そういう場合には」という仮定の意味が含まれている。
 ℓ. 5 ◇ think of A as B 「AをBであると考える」
 ◇ Well, 「えっと；じゃあ；そうね；さて」
 ○ 会話を切り出したり、続けたりする時に言う言葉。
 ℓ. 6 ◇ in one's case 「～の場合は」
 ◇ turn out = produce
 ℓ. 7 ◇ success as ~ 「～として成功していること」
 ◇ the emphasis it places on discipline
 ○ it は your high school を受けている。
 ○ it の前に関係代名詞 that/which を補って考える。

- ℓ. 8 ◇ make it = succeed
- ℓ. 10 ◇ self-discipline = the training of oneself to control one's habits and actions (自己鍛錬)
- ◇ key = someone or something that is very important; that is necessary for success 「重要な；必須の」ここでは形容詞として用いられている点に注意。
 - ◇ ingredient = particular one of a mixture of things (要素)
 - ◇ separate A from B 「AとBを分ける」
 - ◇ those who make it = people who succeed
 - ◇ those who do not : not のあとに make it を補って考える。
- ℓ. 12 ◇ to enjoy it with : it は a good school を受けている。with が必要なのは, enjoy a good school with people という意味のつながりになるからである。
- ◇ advantageous (*cf.* advantage) = helpful; useful
 - ◇ Combine ... and it becomes ~ : 「命令文 + and ~」という構文になっている。これは If you ..., ~ と同じ意味。
 - combine A with B 「AをBと組み合わせる」
 - ここで A に当たるのは these somewhat uncontrollable external forces, B に当たるのは some good internal characteristics
- ℓ. 13 ◇ it : この it は to 以下を指す形式主語。
- ℓ. 14 ◇ keep ~ down = prevent ~ from getting power and status and being completely free ((人の) 進歩を妨げる)
- Ex.* You can't keep a good man down. (才能ある人が伸びるのを押さえることはできない。)
- ◇ determined = having or showing a strong will 「決心している；本気になった」
 - ◇ fellow 「(一般に) 人」
- ℓ. 15 ◇ formal = official (正規の)
- ℓ. 16 ◇ element 「要素；要因」
- ◇ inquisitiveness *cf.* inquisitive 「好奇心の強い」
 - ◇ make A B 「AをBにする」
 - ここでは A は the act of studying and learning, B は a delight
- ℓ. 17 ◇ fellow = someone with who one shares an activity or spends time in a place (仲間)
- ℓ. 18 ◇ tend = move or develop one's course in a certain direction (～の方向に進む；向かう)
- ℓ. 19 ◇ alter = change; become different
- ◇ over the next thirty years 「今後30年のうちには」
 - over = during or beyond a certain period
- ℓ. 20 ◇ along with ~ = together with ~
- ◇ get on with ~ = continue doing ~ or start doing ~

[3]

解答

(1) d

(2) b

(3) a

(4) d

Script

CD 1

M : Hi, Marie.

W : Oh, hi, Don. How're you doing?

M : Not bad. How about you?

W : Great. Are you going to the concert at the student center on Friday night?

5 M : I wish I could, but I've got too much work to do. I've got three papers due next week.

W : You should go to this concert. It's going to be great. A whole bunch of us are going together. Why don't you join us?

M : Really, I'd like to, but I've got to get some work done on my papers.

W : Come on, Don. It's the weekend! Relax!

10 M : I'm afraid I've been relaxing a little too much this term. Now I've got three papers to finish by the end of next week, and then it will be time to study for exams.

W : You ought to come for the second band at least. The first band won't be anything special. Just some weirdos from the art school — you know Joan Bosworth?

M : No, who's she?

15 W : She's some strange girl from the art department, you know, the type that likes to wear strange clothes so everyone will look at her. She's the lead singer, but she can't sing any better than the average cat. The only reason her band is opening for the New Romantics is that her boyfriend is on the events committee. Her band is called the Trash Can Band because they use trash cans for drums. And that's right where they
20 belong — in the trash.

M : What about the other band, the New Romantics? Are they any good?

W : Are you crazy? They're great! Don't you listen to the radio? They're the biggest things since The Beatles — or Culture Club.

M : Well, yeah, sometimes, but I don't really pay that much attention these days.

25 W : Don, you've really got to get out more. Go to the concert.

M : Give me a break, Marie. I'd love to go, but if I don't get those papers written by Friday, I'm going to be in deep trouble. [323words]

全訳

男：こんにちは、マリー。

女：ああ、こんにちは、ドン。元気にしてる？

男：まあまあだよ。きみはどう？

女：元気よ。あなた、金曜日の夜にある学生センターのコンサートに行くの？

男：行けたらいいんだけど、やらなければならない課題がたくさんあってね。来週、3つのレポートが締め切りなんだ。

女：このコンサートには行ったほうがいいわよ。すばらしいコンサートになりそうよ。私たちはみんなで行くのよ。あなたも一緒に行かない？

男：本当に行きたいよ、でもレポートに少し手をつけなくちゃならないから。

女：いいじゃない、ドン。週末よ。息抜きしなさいよ。

男：今学期はちょっと息抜きをしすぎてるんじゃないかと思っているんだ。今は来週末までに終わらせなければならないレポートが3つあるし、それから、試験勉強をしなければならない時期になるし。

女：少なくとも2つ目のバンドは聞きにいらっしゃいよ。最初のバンドは特別なものじゃないわ。芸術学部の変った人たちっていうだけよ。ジョアン・ボズワース、知ってる？

男：いいや。それ、だれ？

女：芸術学部のちょっと変わった女の子よ。変わった服を着て人目を引くのが好きっていうタイプの。彼女はリード・シンガーだけど、普通の人のほうがうまいくらいだね。彼女のバンドが「ニュー・ロマンティックス」の前座をつとめるたった1つの理由は、彼女のボーイフレンドが実行委員会にいるから。彼女のバンドは「トラッシュカン（ゴミ箱）バンド」っていうんだけど、それはドラムの代わりにゴミ箱を使うからのよ。そしてまさにそこが彼女たちの居場所だわ。ゴミ箱の中ってこと。

男：もう1つのバンド、ニュー・ロマンティックスはどうなの？うまいの？

女：どうかしてるんじゃない？すごいわよ！あなた、ラジオを聴かないの？ビートルズ以来の大物なのよ。または、カルチャークラブ以来のね。

男：うーん、ときどき聴くけどね。でも、最近はあんまり気をとめてないんだ。

女：ドン、ほんとにもっと外に出たほうがいいわよ。コンサートに行きなさい。

男：ちょっと待ってよ，マリー。行きたいんだけど，金曜日までにレポートを書かないと，大変なことになるんだよ。

【4】

A.

解答・解説

- (1) tremble が原形不定詞「就寝するやいなや，家が揺れるのを感じた。」
- (2) to put things in が to 不定詞（形容詞の限定用法）
「物を入れるポケットがついていないジャケットを私は欲しくない。」
- (3) standing over there が分詞（形容詞の限定用法）
「メアリーはあそこに立っている男性と結婚しました。」
- (4) burning が分詞（形容詞 hot を修飾する副詞用法），looking up into the sky が分詞（副詞用法で分詞構文）
「その日は燃えるほど暑かったが，私たちは芝生に座り，空を見上げていた。」
- (5) Shopping abroad が動名詞（may be の主語となる），tasting new types of food が動名詞（with の目的語となる），not to get too emotional が to 不定詞（実質主語となる名詞用法）「目新しい食事を嗜むことに加え，海外での買い物は旅行の最大の楽しみの1つかもしれませんが，あまり感情的になりすぎないようにするのが最善です。」

B.

ポイント

to 不定詞は，文中で名詞・形容詞・副詞として働く。それぞれの不定詞がどのように使われているか確認しておこう。

解答・解説

- (1) to support が形容詞用法（限定用法）
「ステーキには扶養すべき大家族がいます。」
- (2) to see my father off が副詞用法（目的）「父を見送りに空港に行きました。」
- (3) to solve the math problem が名詞用法（実質目的語となる）
「その数学の問題を解くのはとても難しいと分かりました。」
- (4) to solve が副詞用法（程度）
「この数学の問題は難しすぎて私には解けなかった。」
- (5) to be very stable が形容詞用法（叙述用法）
「近頃は物価がとても安定しているように思われる。」
- (6) To hear her talk が副詞用法（条件）
「彼女が話すのを聞けば，彼女をアメリカ人だと思うだろう。」
- (7) To err と to forgive が共に名詞用法（主語となる）
「過つのは人の常，許すのは神の道。」

【5】

ポイント

to 不定詞の副詞用法には‘目的’や‘結果’などさまざまな用法がある。ここでそれを確認しておこう。

解答・解説

- a ‘目的’を表す。「米文学を勉強するために昨年私は渡米した。」
- b ‘結果’を表す。「彼女は成長して優れた外科医になった。」
- c ‘(感情などの)原因’を表す。「その知らせを聞いて大変嬉しく思う。」
- d ‘(判断などの)根拠’を表す。
「この嵐の中を出かけるなんて、彼女はどうかしているに違いない。」
- e ‘程度’を表す。「マークは親切にも私を駅まで車で送ってくれた。」
- f ‘条件’を表す。
「彼がフランス語を話すのを聞けば、あなたは彼をフランス人だと思うだろう。」
- g 形容詞を修飾する。「英語は学び易いとよく言われる。」
- h 独立用法〔独立不定詞〕。「正直に言って、私はその知らせを聞いて驚いた。」

- (1) g 「気をつけなさい。この湖で泳ぐのは大変危険です。」
- (2) e 「前にも言ったでしょ。あなたはこれくらいのことを知っていい年頃よ。」
- (3) d 「そんなにひどい言葉を両親に言うなんてあなたはなんてバカなのよ。」
- (4) c 「宮廷からそんな招待を受け取ること本当に驚きました。」
- (5) a 「ここには真剣な話をするために来たのです。」
- (6) h 「英語は言うまでもなく、彼はフランス語とドイツ語をしゃべることができる。」
- (7) b 「全力で駅まで走ったが、(その結果は)最終電車に乗り遅れたただけでした。」
- (8) f 「そんな奇跡が再び起こると期待するとすれば、あなたは間違っているでしょう。」

【6】

A.

ポイント

to have done の形を完了不定詞と呼ぶ。完了不定詞は時制を前に戻す働きがある。

解答・解説

- (1) The elevator seems to be out of order.
「そのエレベーターは故障しているようだ。」
to be は seems と同じ時制を表す。
- (2) The elevator seems to have been out of order.
「そのエレベーターは故障していたようだ。」
to have been は seems より時制が前であることを表す。
- (3) It seemed that the elevator was out of order.
「そのエレベーターは故障しているように思われた。」

to be は seemed と同じ時制になる。

- (4) It seemed that the elevator had been out of order.

「そのエレベーターは故障していたように思われた。」

to have been は seemed より時制が前であることを表す。

- (5) Sam is believed to have died in Alaska last week.

「サムは先週アラスカで亡くなったと信じられている。」

to have died は is より時制が前であることを表す。ちなみに、It was believed that Sam was very happy. 等であれば、Sam was believed to be very happy. となる。

- (6) Most people in the village were said to have been very poor.

「その村の大半の人々は貧しかったと言われていた。」

to have been は were より時制が前であることを表す。

B.

ポイント

to 不定詞の意味上の主語を表す方法には注意が必要である。It is + 形容詞 + of [for] A to do. の形式は、人の性質を形容する場合には of を、そうでない場合には for を用いる。for を用いる場合、for A to do をひとかたまりに考えられれば、It is + 形容詞 + that S V. と書き換えられることが多いが、必ずしも that 節で書き換えることができるわけではないので注意が必要である。

解答・解説

- (1) for 「あなたは両親を敬うことが必要だ。」

= It is necessary that you (should) respect your parents.

- (2) of 「同じミスを繰り返すなんて彼はなんてバカなんだろう。」

= How stupid he is to make the same mistake again!

- (3) for 「たった一人でその山に登るのは私には難しい。」

※ It is difficult that ~では書き換えられない。

- (4) of 「本当の事を知らせてくれてあなたは誠実だった。」

= You were honest to tell us the truth.

- (5) for 「この石は重すぎて私は反対側に動かすことができない。」

= This stone is so heavy that I cannot move it to the other side.

C.

ポイント

独立不定詞は英作文でも出題される知識なので、できる限り覚えてしまうこと。

解答・解説

to be sure 「確かに」
to begin with 「まず第一に」
to do (a person) justice 「(人) を公平に評すれば」
to make matters worse = to make a matter worse 「さらに困ったことには」
to make a long story short 「かいつまんで言えば」
to say the least (of it) 「控えめに言っても」
strange to say 「奇妙なことには」
needless to say 「言うまでもなく」

- (1) She was rather careless to say the least.
 - (2) To make a long story short, Sophia married her first love.
 - (3) To do him justice, we must admit that he is not equal to the task.
- S is equal to O […ing] 「(人・能力などが) O […すること] に耐えられる; 対応できる」

D.

解答・解説

be apt to *do* ≡ be liable to *do* ≡ be prone to *do* ≡ be inclined to *do*
(≡ tend to *do* ≡ have a tendency to *do*) 「…しがちである」
be eager to *do* (≡ be anxious to *do*) 「…するのを切望する」
be bound to *do* 「…しなければならない; きっと…する」
be forced to *do* (≡ be compelled to *do* ≡ be obliged to *do*)
「…するのを強いられる」
be unlikely to *do* 「…しそうにない」 ⇔ be likely to *do* 「…しそうである」
be supposed to *do* 「…することになっている」
be sure to *do* ≡ be certain to *do* 「きっと…する」
be ready to *do* (≡ be willing to *do* ≡ be prepared to *do*) 「快く…する」
be reluctant to *do* (≡ be unwilling to *do* ≡ be disinclined to *do*)
「…する気がしない」

- (1) Children are always eager [anxious] to know everything.
- (2) She was reluctant to tell me her e-mail address.
- (3) The statesman was forced to resign without having to give an adequate explanation.

E. 分割不定詞

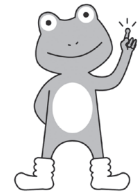
解答・解説

- (1) completely は failed にかかる。
「私が言ったことを理解することが彼女は全くできなかった。」
- (2) completely は一般には failed にかかるとされるが、場合によっては understand にもかかりうる。よって、「私が言ったことを理解することが彼女は全くできなかった。」にも「彼女は、私が言ったことを完全に理解することができなかった。」にもなる。
- (3) completely は understand にかかる。「彼女は、私が言ったことを完全に理解することが出来なかった。」となる。
- (4) completely は failed にも understand にもかかりうる。「私が言ったことを理解することが彼女は全くできなかった。」にも「彼女は、私が言ったことを完全に理解することができなかった。」にもなる。また、said にかかることも理論的には可能。実際には話者がどこにアクセントを置くかによって意味が決定される。

今日の一言

No cross, no crown. 「困難なくして栄冠なし。」

いよいよ2学期。学校行事も多く高校生活が一番忙しい時期に入る諸君も多いと思うが、大学入試を考えた場合、この2学期にどれほど努力出来るかが志望校合格のために大切であることは言うまでもない。学校や部活などと勉強の両立はまさしく「困難」である。が、これを克服してこそ「栄冠」を掴めるのである。



添削課題

全訳

① 女性が家の外で仕事につくことに決めると、多くの重要な問題が生じてくる。能力があり、それをするのにふさわしい仕事を得ることができるだろうか、仕事の中に女性であるという理由で女性に対して閉ざされているものがあるだろうか。職を得たとして、同じ職場で働く人の中に仕事と同じである男性がいる場合、女性は男性と同じ支払いを受けるだろうか、がそれである。この問題は、米国では重要だと考えられている。② 政府はいくつかの法律を成立させて、女性が適任などな仕事にもつくことができ、同じ仕事に対しては男性と同じ支払いを受けられるよう助けようとしている。政府はまた、政府から金を援助されている企業が女性や少数民族集団に対して公正であることを推奨する法律を成立させている。

解説

- ① ◇ there are many important questions that are raised
- that are raised は many important questions を先行詞にする関係代名詞節。raise a question（問題を提起する）はよく結びつく動詞と名詞である。
- ② ◇ laws to try
- | | |
|---|--|
| { | to help women get any job for which they are qualified |
| | to help them get the same pay as a man for doing the same work |
- and
- them は women を指す。
 - the same ~ as ... 「…と（まさに）同じ～」

15章 動名詞

問題

【1】

A.

全訳

今日の世界では、人間が単なる機械になってしまう危険が増大している。この危険に立ち向かう唯一の方法は、これまで我々を人間たらしめ、これからもそうし続ける、過去の伝統的な価値を保持することなのである。

B.

全訳

紛失したり放棄されたりして水中を漂っている魚網や他のビニール製品は、数えきれないほど多くの海洋動物に巻きついたり、これを捕らえ込んだりすることが知られている。「からまること」とここで称するのは、海洋生物が、首や尾や体の他の部分に巻き付いて、ビニール網や他の製品に捕らえられることである。もつれあった状態は、動物が偶然に、あるいは意図的にある製品に接触した時に生じるであろう。

C.

全訳

たいていの人々がしなければならない仕事のほとんどは、それ自体おもしろいものではないが、そうした仕事にさえある大きな利点がある。①まず第一に、そのような仕事は、人が何をすべきかを決める必要もなく、1日の多くの時間を満たしてくれる。②ほとんどの人は、自分の選択に従って、自由に自分の時間を満たすよう任せられると、する価値があるほど十分に楽しいことを思いつかずに困ってしまう。③そして、彼らが何に決めようと、他のものであったならもっと良かったであろうにと思って悩むことになる。

D.

全訳

ほとんどすべての書き物、すべての物語、すべての随筆類は文を短くすればそれだけ良いものになると言って間違いない。このことが当てはまらない文書は、きわめて厳重かつ入念に全てを切り詰めてあるので、1文あるいは1語でさえも取り去れば、必ず何らかの意味が失われることになる、大作家の作品のみである。しかし十中八九、我々の書いたものは、削除することによって改善される。

【2】

解答

- (1) misconceptions
- (2) 人類が原始状態から文明化した状態にまで進化してきたのと同種の進化の過程を言語が経たという形跡はない。

- このことから, the same kind of evolution の後ろに, as the evolution of human race ぐらいが補えると考える。これにより the same kind of evolution の内容を明確にする。
- (3)
- for example は挿入の形で表現される傾向にあるが, 意味的には文冒頭で機能する。
- ℓ. 14 の and が結ぶ A, B を捉えること。等位接続詞で結ばれる語句は, 文中で同じ働きをする語句である。ここでは Latin and Greek を共通の主語にして A = V₁: were once, B = V₂: still are である。
- 全体はいわゆる < A and [M] B > 型の文である。B が出る前に M (修飾語句) = by some (people) が入り込んだもの。その結果 AB が捉えづらくなっている。この場合, M (修飾語句) は B を中心に修飾する。
- 述部は view ~ as ... = 「～を…とみなす」の受身形である。
- | | | | | | |
|------------------|----|------------|-----|---------|------------|
| Latin and Greek, | ~, | were once, | and | by some | still are, |
| S | | A | M | | B |
- viewed as models of excellence in Western Europe
- model = person or thing regarded as an excellent example of a specified quality 「模範」
- cf. He was a *model* husband and father. (彼は模範的な夫であり父親であった)
- (4) この文の後半が理由を表す分詞構文であることを見抜いて, その内容をまとめるとよい。
- unwilling = not ready, eager or prepared to do something
- learn = gain or acquire knowledge or skill in (something) by study, experience, or being taught で study とは異なることに注意。
- (5) この文は仮定法過去の文である。
- this は 前文の (the view of modern linguistics is) that ~ を指す。
(で, 少し曖昧に前文の内容を受けている, というのが米国人インフォーマントのコメント)
- この文全体が仮定法過去の文だからといって短絡的に otherwise を「さもなければ」としないこと。ここでは, be 動詞の補語になっているので, 形容詞用法である。
- otherwise の原義は in other way. この場合は前文の that 節の内容を受けて, in a different state or situation 「それとは反対の」という意味である。
- cf. I would that it were *otherwise*. (状況が今とは違っていたらなあ)
- この would は一般動詞の用法で I would ~ 「～であればよいのに」の意味。
- (6)
- that 以下は独立文が続いているので the theory の内容を表す同格の名詞節。「～という理論」
- in themselves 「それ (ら) 自体」

○文構造は以下である。

the theory that ~ ought to be rejected.
S <同格の名詞節> V

○ reject = dismiss as inadequate, unacceptable, or faulty

(7) l. 16 以降を読み取るとよい。

l. 16 the reasons < given ~ > vary greatly ~
S p.p. V

で理由は様々だ、と述べ、さらにその後はその理由が viewed as 以下で具体的に挙げられていることを把握する。

(8) a 第6段落第1文に一致。

b 第4段落第6文に一致。

c 第2段落全体の内容と矛盾する。

d 第6段落第2文に一致。この文は修辞疑問文。実質否定の内容となる。

全訳

全ての言語は、どの言語についても特に制限となるものがなく、話者の社会的、心理的な必要を満たし、言語は皆同じように科学的研究に値する、という意味で平等である。しかし、こうした主張を認識しないために言語に関していくつかの誤解が生じている。

こうした誤解の中で最たるものは、「原始的な」言語のようなものが存在するという考えである。(しかし、)調査されたどんな文化も、文化的な観点から見てたとえどんなに「原始的」であっても、いわゆる「文明」国のものに匹敵する複雑さを備えた、完全に発達した言語を有している、というところが真実である。人類は、原始状態から文明化した状態にまで進化してきたといえるが、②言語がそれと同種の進化を経たという痕跡はない。「青銅器時代」の言語や「石器時代」の言語というようなものは存在しない。全ての言語に複雑な文法があるのである。

いわゆる「原始的な」言語と対極にある意見あるいは誤解は、一部の言語の「生来的優越性」に関するものである。③例えば、ラテン語とギリシア語は、文学や哲学を表現した言語であるので、西欧においてかつては卓越性の模範と見なされていたし、また一部の者によっては依然としてそう見なされているのだ。

自分自身の言語が他のものより優れているという考えが人々の間に広く広まっているが、その優越性を説明する理由は文化によってかなり違うのである。ある言語は最も論理的であると見なされるかもしれないし、あるいは神の言語だとか、最古の言語だとか、最も繊細なものだとか、あるいはただ発音するのが最も容易な言語であるとかと見なされたりする。例えば、アラビア語の話者は、その比類なき文法的均整美と語彙の豊富さのために、自分たちの古典語を最も美しく論理的だ、と感じている。古典アラビア語は、天で用いられている神の言語と同じであると確信され、それゆえに、他の全ての言語よりも優れているに違いないと感じられているのだ。特に、どの言語が最古のものであるかということに関しては、同様の議論がサンスクリット語やヘブライ語のような他の古典語でもなされてきた。日本人の中には、日本語があまりに難しいか複雑であるので外国人には習得できない、したがって、本質的に「優れている」と感じている者もいる。最終的に、このような優越感とは、怠惰さにつ

ながる可能性がある。例えば、多くの英語話者は、自分たちの言葉は世界のほぼあらゆる国で学ばれていることを知っているので、外国語を学習したがる。

もちろん、言語の中には、歴史上のある時期において、他の言語よりも有用であったり、威信があったものもあるが、これは、その時期にその言語の話者が政治的、あるいは経済的に優位に立っていたためであって、言語に本来備わっている特質によるものではないのである。現代の言語学の見解では、こうした政治的、経済的な影響力に基づいて言語は評価されるべきではない、としている。もし、こうした政治的あるいは経済的な影響力に基づいて言語に価値を与えてしまえば、現代のアメリカ英語はイギリス英語よりも「優れている」ことになるだろう。日本語の東京弁は津軽弁よりも「優れている」ことになるだろう。

したがって、現在では、言語学的観点から言語の優劣を判断することは不可能である。最終的に、(仮にするとしても)我々はどうやってラテン語やギリシア語の長所と中国語の諺の英知、あるいはポリネシア諸島の多岐にわたる口承文学、あるいはまた、英語で表現されてきた深遠な科学的な知識を比較できるというのだろうか。もしかしたら、いつの日かある種の客観的な言語学的評価が考案されるかもしれないが、それまでは、⑥一部の言語がそれ自体他の言語より優れているという理論は却下されるべきである。

注

- ℓ. 1 ◇ in the sense that ~ 「～という意味で」
- ℓ. 3 ◇ be deserving of 「～に値する」
- ℓ. 4 ◇ stem from = originate in or caused by 「～から生じる」
◇ failure to do 「…しないこと；できないこと」 fail to do 「…しない；できない」の
名詞化表現。
- ℓ. 6 ◇ the fact of the matter = the truth
- ℓ. 7 ◇ in ~ terms 「～の観点で」
- ℓ. 8 ◇ comparable to = similar to 「～に匹敵する」
◇ those は the languages を指す。
- ℓ. 10 ◇ bronze age 「青銅器時代」
- ℓ. 11 ◇ stone age 「石器時代」
- ℓ. 12 ◇ at the other end of the scale = 「その対極にある」ここでは言語の発達の度合いを、
それを計測する scale 「目盛り、物差し」に見立てて表現している。英語でよく見
られる表現。
- ℓ. 13 ◇ concerning 「～に関して」
= as regards
= with regard [respect] to
= regarding
◇ certain + (～) (複数名詞) = 「いくつかの～」
- ℓ. 21 ◇ identify A with B = equate A with B 「A と B を同一のものともみなす」
- ℓ. 23 ◇ with regard to which language is the oldest 「どの言語が最古であるかということ
に関して」

- with regard to 「～に関して」
- which 以下は疑問詞節
- ℓ. 27 ◇ just about = almost
- ℓ. 32 ◇ on the basis of 「～に基づいて」
- ℓ. 35 ◇ rate = consider to be of a certain quality or standard 「評価する」
- ℓ. 36 ◇ How, ultimately, could we compare ~? 「最終的に、どのように我々は～と比較できようか、いやできないだろう」
- 答えを要求されている訳ではない。段落末、文章末の疑問文は修辞疑問文。肯定の疑問文で実質否定文の意味を持つ。

【3】

整理しよう

テーマ別英作文：季節・天候

解答・解説

- (1) The rainy season isn't yet officially over, but the fireworks display tonight will mark the beginning of summer.
- (2) As the days become [grow] shorter and dark falls rapidly, we feel that winter is drawing near.
- (3) The leaves are at their peak color [The autumn leaves are at their best] , and we should go to see the beautiful autumn tints [to view them] this Sunday.
- (4) Typhoon No.15, which caused a lot of damage in many places, is moving up north at forty kilometers per hour.

別解 Having wreaked havoc in many parts of the country, Typhoon No. 15 is now moving northwards at a speed of 40 kph.

○ wreaked 「破壊された」 cf. wreak 「～を難破させる；破壊する」

- (5) Why not go on a snowboarding trip this winter and find a new romance [a new boyfriend ; girlfriend] ?
- (6) We had the heaviest snowfall in thirty years in Tokyo, due to unprecedented cold weather.

別解 A record-breaking cold spell has brought Tokyo its heaviest snowfall in thirty years.

○ spell 「(天候などの) 一続き (の期間)」

- (7) Immediately after Christmas, most Japanese people change the mood to prepare for New Year.

テーマ別英作文：衣食住

解答・解説

- (1) In summer we use a lot of glass and bamboo ware. They make [help] us feel

cooler.

- (2) I may as well face it. [I hate to admit it, but] I'm addicted to coffee.
○ addict 「～を依存症にする」
- (3) I have a craving for something sour.
○ craving 「(～への) 切望；渴望」
- (4) She is quite fussy about what she eats.
○ fussy 「(ささいなことに) うるさい；気難しい；神経質な」
- (5) Children depend totally on their parents for food, clothing and shelter.
○ food, clothing and shelter 「衣食住」
- (6) (At a restaurant) Can you bring an extra plate?
- (7) Is it true that quite a few foreigners expect Japanese people always to be wearing kimono [wear kimono all the time] ?

【4】

解答・解説

- (1) being noticed 「彼の後ろを気づかれずに通り抜けた。」
without は前置詞であるから原則として動名詞を続けなければならない(例外は have no choice but to do など)。意味内容から考えて、noticing me (私に気づくこと)ではおかしい。
- (2) Taking 「定期的に散歩をすることは、健康のためにできる最善のことの1つだ。」
is の主語とするには、名詞句 (to 不定詞の名詞用法もしくは動名詞)にするか名詞節にすればよい。したがって To take, Taking, That you take であれば正解になりうる。
- (3) being loaded 「安全を確保するため、全ての荷物は飛行機に載せる前に検査しなければなりません。」
動名詞の意味上の主語が明示されていない場合には、動名詞の主語は主節の主語か目的語に一致する場合が多い。本問では all bags という主語に合わせて being loaded にする。
- (4) writing 「私は処女作をちょうど書き終えました。」
finish は目的語に動名詞を取り、to 不定詞を取らない。
- (5) to drop 「今度お越しの際にはぜひお立ち寄りください。」
forget to do (これから…し忘れる) と forget …ing (…したことを忘れる) の違いに注意する。to 不定詞は「これからのこと」、逆に …ing は「昔のこと」を表すことが多い。visit は他動詞であるからここでは不適當。
○ drop in [drop on 人 / drop at 場所] 「(～に) 立ち寄る」
- (6) no telling 「次に何が起るのかわからない。」
there is no …ing (…することはできない) のような動名詞を用いた慣用表現は重要なものが多い。talk は原則として自動詞であり what is ～を目的語に取れない。
- (7) painting 「先日彼が買った家はペンキを塗る必要がある。」
need [want] …ing は「…される必要がある」という意味で、…ing が受け身の意味を持つ。

- (8) me climbing 「両親は私が雪山に登ることに反対している。」
 動名詞の意味上の主語は所有格もしくは目的格 (* 通格) で表すことに注意。
 * 「通格」…英語では名詞の場合、主格と目的格の語形が同じであることから、両者をあわせて通格と呼ぶことがある。
 ○ object to …ing 「…することに反対する」
- (9) her not being 「彼女が急行電車に乗ることができないのではと私たちは恐れた。」
 her が not being という否定の動名詞の意味上の主語となる。
- (10) to shop 「ジョンソン夫人は、夕飯の買い物をするために立ち寄ったため、遅れて着いた。」
 stop …ing (…するのをやめる) と stop to do 「…するために立ち止まる、立ち止まって…する」の区別をつけること。

【5】

A.

解答・解説

pretend

(誤) He enjoyed to ski. (正) He enjoyed skiing.

のように、目的語に動名詞だけをとる動詞があるが、pretend だけは to 不定詞のみを目的語にとる。

Ex. She pretends to be a student. (彼女は学生のふりをしている。)

B.

解答・解説

- (1) to come 「7時までに帰宅するって約束したでしょう？」
 promise は目的語に to 不定詞を取る。
- (2) accepting 「彼らは我々の申し出に強く抵抗した。」
 resist は目的語に動名詞を取る。
- (3) playing 「あなたは昨晚ギターの練習をしていたでしょう？」
 practice は目的語に動名詞を取る。
- (4) being 「エマは間違っていることを認めなかった。」
 admit は目的語に動名詞を取る。
- (5) being 「ダニエルは危うくトラックに轢かれるところだった。」
 escape は目的語に動名詞を取る。
- (6) to take 「アンソニーは無罪だと言って、罰を受けることを拒んだ。」
 refuse は目的語に to 不定詞を取る動詞。
 ○ take one's medicine 「潔く罰を受ける」
- (7) to be 「彼の最高傑作だと思っている映画が2か月後に上映される。」
 consider は目的語に不定詞を取らず動名詞を取るが(次の(8)参照)、この英文では consider の目的語は what であり、to be …は目的格補語であることに注意。
- (8) taking 「若いころは司法試験を受けることを考えた。」

consider は目的語に動名詞を取る。

○ bar examination 「司法試験」

(9) to be 「どんな芸術作品も人の注目に値するように仕上げる必要がある。」

finish は目的語に動名詞を取るが、この to be は目的語ではなく副詞的用法にすぎない。

(10) going 「歯医者に行くことを、もう手遅れになるまで延ばしてはいけません。」

put off (= postpone) は目的語に動名詞を取る。

C.

ポイント

動名詞と不定詞の両方を目的語に取る動詞であっても、不定詞が未来のこと、動名詞が過去のことを表すものがある。

解答・解説

(1) telling

「言ったことを覚えていませんので、もしかしたらご存じないかもしれません。」

○ remember *…ing* 「…したことを思い出す」、remember to *do* 「これから…することを忘れない」

(2) to inform 「遺憾ながら貴意に添いかねます。」

○ regret to *do* 「遺憾ながら…する」、regret *…ing* 「…したことを後悔する」

(3) meeting

「あの俳優に会ったことは忘れまい。彼女の演技は全くもって素晴らしかった。」

○ forget *…ing* 「…したことを忘れる」 forget to *do* 「…し忘れる」

(4) to say

「不意に彼は、その娘は人間ではないと言った。しかし続けて彼は、『むしろ、おとぎの国から来た妖精だ。』と言った。」

○ go on to *do* 「さらに続けて…する」、go on *…ing* 「…し続ける」

○ abruptly 「突然；不意に」

(5) eating

「日本滞在中に、私は試しにお好み焼きを食べてみました。とてもおいしかったです。」

○ try *…ing* 「試しに…する」、try to *do* 「…しようとする」

(6) to think, thinking

「I stop to think というフレーズは、『考えるために立ち止まる』という意味であり、I stop thinking の意味ではありません。後者は『もう考えない』ことを意味します。」

○ stop to *do* 「…するために立ち止まる」、stop *…ing* 「…するのをやめる」

【6】

ポイント

動名詞の意味上の主語は、硬い言い方では所有格が用いられるが、くだけた表現では目的格（通格）が用いられる。

解答・解説

(1) company('s), in

「私はその会社が日本経済に参入することを想像できません。」

(2) Emily('s) coming

「私たちはエミリーが遅れてきたことを許した。」

(3) on James(') [James's]

「私たちはジェイムズが料金を支払うように主張した。」

(4) his [him] not having

「彼女は彼が全く関心を持ってくれないことを気にしなかった。」

(5) of my father('s) having

「私は父がタバコをやめたことを誇りに思う。」

今日の一言

To err is human. 「誤りを犯すのが人間。」

To err は to 不定詞で、主語として働く名詞用法である。このテキストを解いていると、間違いばかりが目立って勉強する気持ちがなくなってしまう。そんな弱音を吐いている諸君もいることだろうが、間違えるからこそ学習できるわけで、そもそも初めから全部できる人なんて世の中にはいない。間違いを謙虚に反省して授業時間内に覚えてしまう気持ちが、諸君を一歩ずつ合格へと導いてくれるのである。

添削課題

全訳

幸運にも、私達の多くは愛され必要とされていて、そのおかげで人生を有利に出発することができる。しかし、私達全てに大きな印象を与えるもう1つの幼少時の影響に目を向けてみよう。私達は、自分と比べるとまるで巨人のような非常に強力な存在がたくさん住んでいる世界に、ちっぽけな生き物として生まれてくる。いくら赤ん坊は愛され大切にされるとしても、どうしても全てのものが自分より強いと感じざるをえない。だから人生の第一印象の1つは「自分は弱者であり、他者は強者である」というものなのである。

解説

- ◇ people *vt.* = fill with people
- ここでは過去分詞で用いられている。
- ◇ However much a baby is loved and cared for, ~ 「どれだけ赤ん坊が愛され大切にされるとしても」
- However much ~ は譲歩の副詞節。
- ◇ … prevent himself from feeling that everyone is stronger than he is
- prevent O from …ing は「Oが…するのを妨げる」、that 以下は feeling の目的語。